

第111回: 双規と憲兵

第二次世界大戦のさなかに製作・公開され、名優ハンフリー・ボガートとイングリット・バーグマンが共演した映画「カサブランカ」のクライマックスは、フランス国歌の大合唱シーンであろう。場所はドイツの影響下にある仏領モロッコのカサブランカ。主人公リックの経営するナイトクラブでドイツ将校たちが「ラインの護り」を大声で歌うのを見たレジスタンス運動の指導者ラズロが楽団に歩み寄り、「ラマルセイエーズ」を演奏するよう指示する。最初は戸惑う団員たちであったが、リックが黙って頷くを見て演奏を開始し、それを見た店内の客が総立ちでフランス国歌を斉唱し、ドイツの軍歌を圧倒してゆく場面である。問題はその後、屈辱に逆上した独シュトラッサー少佐は、傍らのルノー警察署長にクラブを閉鎖するよう命じる。これに対し署長は「But I have no reason to＝閉鎖する理由がありません」と一旦は抵抗するが、少佐は一言「Find one＝理由を探せ！」と告げる。署長はやむなく「違法カジノ経営」を理由にクラブ閉鎖を命じる。リックは「うちのカジノの常連客が何をめかす」と呆れるが、署長は委細構わず、支配人が「今日の勝ち分です」と届けにきた現金をポケットに突っ込みながら、客に立ち去るよう指図する場面が何とも可笑しかった。

おととい、ネットで中国ニュースを探していたら、くだんの「重慶事件」で、重慶市書記を解任された薄熙来政治局委員に関し、香港メディアや欧米の華字紙が「薄熙来は夫人の経済疑惑に絡み、党の調査を受けている」というニュースを流し始めたので驚いた。同夫人の谷開来女史は北京で手広く弁護士事務所を経営しており、なにか金銭に絡む嫌疑で調査を受けているという。玉石混交の香港情報を素直に信じ込む訳にはいかないが、万が一これが事実とすれば勝負ありだ。「党中央が調査を指示した」とは「クロ」の結論が出たことを意味する。あとは映画カサブランカと一緒に、理由を探すだけなのである。

日本人にとって中国語の「話す」「聞く」は難しいが、「読む」は易しい。日本人が漢字で書かれた中国語を理解するのは簡単だ。なかには中国語と日本語で「勉強」が《強制》、「合同」が《契約》といった相違もあるが、ざっと中国単語の八割は日本でも通用する。例えば悪事を働き、だれかに捕まった状況を中国語で「逮捕」、「拘留」、「捕捉」と表現し、捕まった人を「犯人」、「悪人」、「嫌疑犯」等と呼ぶが、日本人は辞書を引かなくても意味が理解できる。しかし例外もある。中国では政府高官が尋問される「双規＝シュアングイ」という専門用語を誰でも知っているが、ふつうの日本人は知らないだろう。双規は共産党用語だからである。一党独裁の中国では、共産党の下に政府や国会が置かれており、党員が悪事を働いたとき、警察や検察が出動する前に党が優先的に調査する権限を有している。もちろん共産党も何かと忙しいので、末端党員が無銭飲食や痴漢行為を働いたような場合は、遠慮なく警察に突き出してよいそうだ。双規とは共産党の幹部職員が行政規律に違反したと疑われる場合、党組織が本人の職務を停止させて、「規定された場所と、規定された時間」において行う尋問のことである。その元締めが中央規律検査委員会（以下規検委）であり、「規定場所、規定時間」という二つの規定からこの尋問を「双規」と呼ぶ。調査の結果、刑事犯罪に触れたと認定された場合には検察機関に送致、司法手続きに基づき公訴を提起する。規検委

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

が「こいつはクロだ」と大声で呟けば、警察も検察も裁判所も、場合によっては弁護士までが最敬礼し、あとは所定の事務手続きを経て被疑者を牢屋か豚箱にぶち込むだけである。戦前帝國軍人が規律違反を犯せば、羅卒ではなく憲兵に捕まり、普通裁判所でなく軍法会議を経て、軍事監獄に収監されたが、これに似た制度が双規だと言えば中国共産党は同意してくれるだろうか…多分同意しないだろう。

改革開放の30年で中国共産党の政治局委員が失脚した例は、95年の陳希同(北京市党書記)、と06年の陳良宇(上海市党書記)の二人しかいない。彼らは汚職を理由に「双規され」、刑務所に送り込まれたのだが、より正確に表現すれば、汚職を働いたから失脚したのではなく、党中央の命令に逆らったから、汚職を理由に拘束され、久しく圜園に呻吟する身となったのである。

いま規検委主任は、政治局常務委員(全9名)の賀国強である。今秋の共産党大会で新指導部が誕生し、トップ9の員数が現行通りか、はたまた増減か注目されている。奇数であれば何名でも構わないようだが、改革開放の30年の歴史のなかで、総書記、首相、規検委主任だけは常に常務委員が占めてきた。全人代委員長はヒラ政治局委員でも勤まるが、大目付ならぬ規検委は党首脳でないと睨みが効かないのだ。

知り合いに双規を受けた不運な御仁がいる。さる疑獄事件の参考人として事情聴取を受けたのである。双規の鉄則として、地元の規検委では公正さが保てないので必ず他地域のチームが出動し、しかも長期戦のため運転手に料理人まで帯同する。場所も大都市の中心部は情報漏れの恐れがあるため不可。友人の尋問は市郊外にある国有企業の保養所を収用して行われたそう。外部との連絡は一切禁止され、参考人にも拘わらず毎日峻烈苛烈な尋問が行われ、彼はノイローゼ状態に陥り、いつそ窓から飛び降りようかと思いつめたこともあったという。幸い彼は2週間後に釈放されて済んだが、彼の上司たちは一網打尽となり、その後の形式的な裁判で10年を超える長期刑を受けた。

重慶事件は薄熙来が昇進の糸口を重慶市のヤクザ撲滅と、毛沢東時代への思想回帰に賭けて発動した政治運動である。今週上海からやってきた中国の友人と一盞傾けたとき、筆者が映画「人生劇場」で侠客・吉良常が飛車角を諭した「ヤクザの世界に足を踏み込んだ者の行きつく先は、赤い着物(圜園の人)か白い着物(仏さま)しかないのさ」という台詞を紹介したら、友人は嬉しそうにメモをとりながら「馬鹿が調子に乗って毛沢東のまねをしたからだ」と切り捨てた。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年3月22日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%(税込み)(約定代金が260,869円以下の場合、3,150円(税込み))の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400%(税込み)の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%(税込み)の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%(税込み)(約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円(税込み))の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。